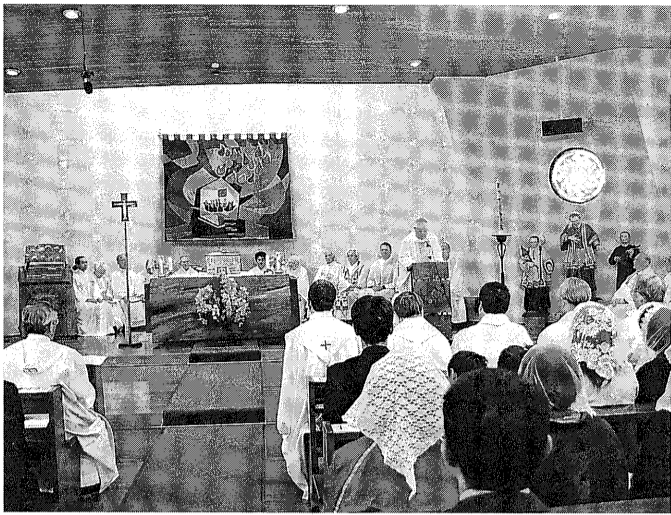




〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間干共1100円

4日	受難の主日(枝の主日)
8日	世界青年の日
9日	聖木曜日(主の晩餐)
10日	聖金曜日(主の受難(大斎・小斎))
11日	復活の主日
18日	復活節第一主日
25日	復活節第三主日

それは3人の司祭の派遣から 教区の隅々まで宣教



司教は説教で50年を振り返り感謝の意を表した

ミュンヘン管区来日50年を記念

レデンプトル修道会

レデンプトル修道会ミュンヘン管区から派遣された三人の宣教師が鹿児島は川内の地に着任して約五十年。この半世紀に同会は北は出水市から南は与論島まで、教区の開拓期に教区司祭の手の足りない、及ばない地域で宣教活動に尽力してきた。そして三月二十日(土)同会鹿児島準管区本部のある谷山教会で、その来日五十年を記念する式典が開かれ、過去を振り返るとともに未来に向けて歩みを進める決意を表した。

レデンプトル修道会
レデンプトル修道会
は、一七三二年に聖アルフ
オンソ・マリア・デ・リゴ
リによってイタリアで創設
された男子修道会で「貧困
にあえぐ人々、霊的援助が
極端に不足している人々へ

の奉仕」のために働き続け
ている。現在世界七十七か
国で活動し、これまでに
「樫の木の人」と言われた
聖クレメンス・ホフパウア
ーなど三人の聖人と福者五
人が誕生している世界有数
の修道会である。

後、翌年九月三日に川内教
会に着任した。
彼らは日本とドイツの
食や文化の違いと闘いなが
ら、川内、出水、加世田、
谷山での布教を始め、一九
五八年には徳之島地区の宣
教にも乗り出した。そして
一九六六年、鹿児島準管区
に昇格し、一九七五年から
は長崎にまで活動の場を拡

ミュンヘン管区来日
そのレデンプトル修
道会で最初に日本の土を踏
んだのはセント・アン・ボ
ープレ管区(カナダ・一九
四八年来日)、鎌倉で活動
を開始した。その後、同じ
くカナダのトロント管区が
丹後・丹波地区に着任。出
口鹿児島教区長の要請を受
けた布教聖省の斡旋によっ
てミュンヘン管区が来日し
たのはそれから五年後にな
る。

同管区からの最初の宣
教師はマイエル、ミタマヤ、
ヤロシユの三神父。三人は
一九五三年九月十日に来日
し東京で日本語を勉強した



心を一つにしてミサに参列した信者たち

午前十時か
ら始められた
式典では、ま
ず来日五十年
の記念ビデオ
が上映、レデ
ンプトル会
の現在の活動
の様子や来日
当初の懐かし
い映像が映し
出された。
その後は糸
永司教司式の
感謝ミサがさ

待望の鹿児島教区教会
学校のカリキュラム(小学
生用)が出来上がり、この
四月から各小教区教会学校
で活用されることになっ
た。
これまでは、全国版は
あっても教区に適用したも
のはなく、それぞれの教会
学校の努力に任ざられて
いた。
一昨年秋のカテキスタ
研修会で、長崎・浦上教会
の教会学校を見事に建て直

した川添師の講話が発端に
なった。それに刺激された
司祭団は、翌年の司祭大会
で話し合い、「教会学校の
カリキュラムを作る。その
ために作成チームを置き皆
でサポートする」ことで合
意していた。
早速、叙階間もない末
吉師(ザビエル助任)を中
心に大松(谷山)、泉(鴨
池)両師の三人で委員会を
立ち上げ、仕事にかかった。
昨年秋のカテキスタ研修会

に案を提示、分かち合い
から寄せられた意見を参考に
して、このたび、完成した
ものである。
カリキュラムは学年別
で年間十一月、各月二回の
教会学校と考え、毎回のテ
ーマを示したものを。
各司祭に送られ、この
四月から、各小教区の実情
に応じて利用してもらおう。
委員会ではその結果を取り
入れながら、今後より良い
ものにしていきたい考えで
ある。
子どもたちの信仰教育
は家庭との連携が重要な
で順次公表予定(二面参
照)。

4月23日は ザビエル上陸記念碑除幕の日

ザビエル上陸記念碑は
鹿児島教区創立(鹿児島
知牧区として長崎教区の
管轄から独立)五十周年
を期に計画され、総工費
千二百万円とおよそ三年
の歳月をかけて新祇園之
洲に建立。一九七八(昭
和五三)年四月二十三日、
午後三時三十分からの除
幕式の後、ただちに、鹿
児島市に寄贈された。

建設には鹿児島島の文
化、財界人の有志の方々
の賛同を得てザビエル上
陸記念碑建設世話人会
(委員長・松村忠之助)が
あたったが、資金集めに
は教会内外から協力を得
た。
記念碑は信楽焼の陶板
レリーフと天空を翔(か
け)るかのようなザビエ
ルのブロンズ像からなる。

レリーフはルイ・フラン
セン、ブロンズ像は吉野
毅氏(とともに当時、東
京芸大)の作。レリーフ
にはヤジローに案内され
て鹿児島に上陸するザビ
エルと鹿児島の人々の出
逢いが力強く描かれ、ブ
ロンズ像は「すべてを神
に託して魂の救いのため
に奔走するザビエル像」
である(フランセン)。
建立の地・新祇園之洲
はザビエル上陸地付近と
いう願いに鹿児島市側が
提供してくれた場所。

道会が発展するよう心を合
わせた。
これを受けてミサの終
わりには教区とレデンプ
トル会が心を一つにして働
けるようにと、司教に同会
の聖人が刻まれたメダイが
送られた。
ミサ後は教会ホールで
祝賀会が開かれ、喜びの信
者たちと会員たちが心を通
せながら互いに感謝し合う
姿が見られた。

教区人事

▼柳本繁春神父(湯江修道
院長)は、四月一日付け古
田町教会助任司祭。

司祭の消息

▼坂谷豊光神父(古田町教
会助任)は、四月一日付け
湯江修道院(長崎教区)
へ。

待望のカリキュラム 教区教会学校(小学生用)を発表

待望の鹿児島教区教会
学校のカリキュラム(小学
生用)が出来上がり、この
四月から各小教区教会学校
で活用されることになっ
た。
これまでは、全国版は
あっても教区に適用したも
のはなく、それぞれの教会
学校の努力に任ざられて
いた。
一昨年秋のカテキスタ
研修会で、長崎・浦上教会
の教会学校を見事に建て直

テーマは七つ

小学生用「教区教会学校カリキュラム」

このカリキュラムは、小学生に対する要理教育の内容を、次の七つのテーマに分けて各学年毎に作成しました。①父である神 ②キリスト ③聖霊 ④教会 ⑤秘跡 ⑥祈り・信仰宣言 ⑦鹿兒島の教会史

1年生カリキュラム

Table with 5 columns: 典礼行事, 月, テーマ, 回, 内容, その他. Rows include 聖母月, ロザリオの月, 降誕祭, 主の洗礼, 四旬節.

2年生カリキュラム

Table with 5 columns: 典礼行事, 月, テーマ, 回, 内容, その他. Rows include 聖母月, ロザリオの月, 降誕祭, 主の洗礼, 四旬節.

<KABAYAN SEKSIYON>

“ANG PANAHON NG CUARESMA”

Mga Kababayan, noong Miyerkoles de Ceniza ay sinimulan na natin ang panahon ng Cuaresma. Ang Inang-Simbahan ay inaanyahan tayo na bigyan natin ng halaga ang panahon ng Cuaresma, at ihanda natin ang ating mga puso at isip sa pag-alaala ng paghihirap at pagkamatay ni Jesus. Ang panahon na ito ay ipina-alaala sa atin ang kahulugan ng kamatayan ni Jesus at ng mapalalim ang ating pagkakanawa ng misterio ng krus. Ang paghihirap ni Jesus ay ang naging daan ng kabayaran ng kasalaran natin at ng buong mundo. Ngayon, sa araw-araw ng ating pamumuhay, kung minsan ay nararanasan natin ang mga paghihirap, pagtitiis, problema at saka pagkakasakit. Nagtatanong tayo sa ating mga puso, bakit sa mundong ito ay mayroon paghihirap? Bakit bigla na lang nagkakasakit, bakit bigla na lang namamatay, batang-bata pa? Ito ang ating mga hinagpis. Bakit pinahayagan ng Diyos ang mga bagay na ito? Kung ang Diyos ay Pag-ibig, bakit nangyayari ang bagay na ito sa mundo, sa ating buhay? Bakit, bakit iyan ang katanungan natin? Ito ang mga katanungan na hindi kayang sagutin ng tao. Subalit ngayon panahon ng Cuaresma ang mga katanungan na ito ay may kasagutan. Mahal ng Dios ang tao at ayaw niyang maghirap, subalit dahil sa kasalanan na naghahari sa buhay ng tao, ang tao ay naghihirap. Kaya para mailigtas ang tao sa paghihirap, ay ipinadala ng Diyos ang kanyang Anak. Nagtitiis at naghirap siya para sa atin. Dinala ang krus hanggang sa kamatayan, subalit siya'y binuhay muli. Kaya mga Kababayan, ang mga malili it na paghihirap at pagtitiis na nararanasan natin ay may kahulugan. Palagi natin iton ang ating mga mata ki Jesus na nakapako sa krus. Magtiwala tayo sa kanya. Makiisa tayo sa paghihirap ni Jesus sa panahon nitong Cuaresma. Sa paghihirap natin, diyan din natin makikita at mararanasan ang dakil ang pag-ibig ni Jesus. Ang pag-ibig ng Diyos.

Fr. Dino A. Orofio

tel/fax 09972-2-0423 keitai: 090-2085-1094

今月の暦

(4月)

- 5日(月) 女性信徒の会主催読書会・教区本部・10時
8日(木) 聖香油ミサ・カテドラル・10時
14日(水) 教区本部会議・会議室・10時
18日(日) 初代ザビエル教会空襲で外壁のみに
20日(火) 司祭評議会・教区本部・10時
23日(金) ザビエル上陸記念神降幕式の日
27日(火) 奄美例会

- 2日(日) 召命祈願日
9日(日) 教区財務委員会・教区本部・14時

鹿兒島カテドラルの聖週間

- 8日(木) 聖香油 …… 10時
9日(金) 主の晩餐 …… 19時
10日(土) 主の受難 …… 19時
10日(土) 復活徹夜祭 …… 20時
11日(日) 復活の主日 …… 9時

祈りの意向

【祈禱の使徒会】

一般・聖なる品級への候補者の堅実な準備と叙階された者の永久的養成
布 教・反省のテーマ及び努力の材料である
【諸国民のための】宣教精神
日本の教会・キリストとともに死からいのちへ
【十字架の使徒会】 司祭の召命

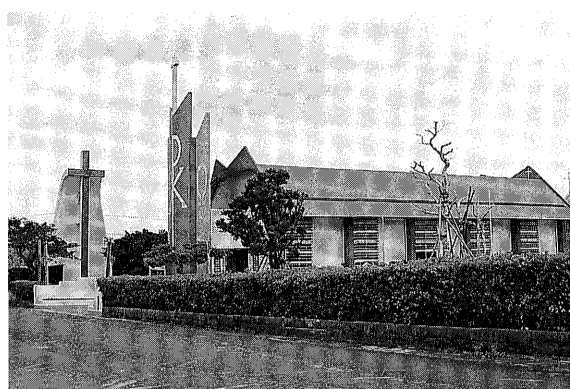
カバイヤン セクシオン (概要)

灰の水曜日から四旬節に入りました。イエスの死の意味を思い起こさせ、十字架の神秘に目覚めさせてくれるこの季節を教会は大切にするように招いています。

日常生活の中で起こる病氣や苦しみ、そして死という悲劇…、神に愛されているはずなのにこのようなどことは起きてしまいます。それは人間の罪の結果です。この季節、私たちに起こる様々な苦しみや問題を十字架のキリストに目を向けることで、それらの意味を見出すことができますように。イエスの愛をいつも感じることができまますように。

盛大に笠利小教区の百周年を記念 中村長八神父が拓いた大笠利教会で

笠利小教区(浜田盛茂神父)ではその中心的教会「大笠利教会」に共同
体が誕生した一九〇四年を小教区誕生と位置づけ、三月二十一日(日)盛
大に小教区設立百周年記念式典を挙行した。式典には糸永真一司教をはじめ
同小教区出身の聖職者、全島から駆けつけた信者など大勢が参列し「祈
りの島」奄美大島でも特に信仰深いと言われた笠利小教区がますます光り
輝くよう心を合わせた。



100周年を迎えた大笠利教会

大笠利の宣教は一九〇三年、中村長八神父によって始められた。
一八六五年、長崎県は五島列島福江島の奥浦村に生まれた中村神父は長崎で神学を学び、クザン司教によって一八九七年、三十一歳で司祭に叙階された。
その後、二十六年もの間、奄美大島での開拓伝道に従事し、一九二三年、移民した日本人と日系人の宣教師のため五十八歳でブラジルへ。ブラジルへ渡った中村神父はただ宣教するばかりでなく地元の文化、教育、社会生活の質向上にも尽力し、その功績は地元

の人々の心を動かし、現在列福調査が行われているほどである。
中村神父は手記の中で一九〇四年の春の盛りの頃、大笠利で二日連続の洗礼式がありそれぞれ九十人の信者が誕生したと報告している。
また「その後も引き続き受洗者あり、たちまち三百名の信者を得るに至りぬ」と記している。
大笠利に仮聖堂が建てられたのは翌一九〇五年。その後一九一五年に司祭館付の聖堂が完成するが放火によって焼失、建て直されてからも放火による焼失などあり、現在の聖堂は五代目になる。
小教区百周年を記念するにあたって笠利小教区では、一年半前から毎朝のミサ前に「笠利小教区百周年の祈り」を唱えることにし、一つの心で神

の手足となって働くことができるよう教会の保護者大天使聖ミカエルの取次ぎを祈ってきた。また百周年の歌も作られた。加えて昨年四月には実行委員会を組織、これまでに六回にわたり会合を開いてこの記念式典に備えている。
その実行委員会の特徴

は何と言ってもその人数の多さにある。「一人一役」を合言葉に皆で百周年を記念しようと招集された実行委員は総勢八十人。また地元との絆の強さを示すかのよう、教会外の協力者「賛助会員」も多数いる。実行委員会では記念樹、記念碑、大会当日の準備や会計、また記念誌編纂へと部門ごとに分担し協力し合ってきた。
主任の浜田神父は「大正時代『奄美のローマ』と言われるほど信仰深い地だった笠利。その証として、笠利出身の司教が一人(石神前那覇教区長)、司祭も有馬信茂神父をはじめ多数いる。また修道女に至っては四十人を超える。この百周年を機会に再び活動的な

国際色豊かにあつちこつちミサ

テーマは「ごぎだせ!地球人」

鹿児島島の青年たちは映画も上映

二月二十九日(日)午後三時「ごぎだせ!地球人」をテーマに掲げ全国一斉にさげられた青年たちの「あつちこつちミサ」が、鹿児島市でも行われた。鹿児島島の青年たちはカテドラルで鹿児島在住の外国人とともにミサをささげ、国や人種は違ってもキリストに結ばれた兄弟であることを確認、更に若者たちが様々な問題に挑戦する映画を観て、自分たちでできることまた欠けているものを確認した。

ネットワークミーティング「あつちこつちミサプロジェクト」の呼びかけにこたえて、鹿児島島の青年たち有志も全国の青年たちと同日・同時刻に同じ意向でミサをささげた。
鹿児島島のミサは、毎週日曜日午後カテドラルで

小教区になれたら」とこの記念祭が小教区の良い刺激になりそうとその意義を述べた。また実行委員の一人日高潤郎さんも「式典の準備を通して教会への協力者が増えてきた。洗礼を受けたいという人も出ています。信者だけの集落になりそうな所のあるほど」と地元の人たちと一緒に式典の準備ができたことが大きいとその喜びを語った。
この日さげられた糸永司教主司式による記念ミサには押川那覇司教、石神前那覇司教、園田管区長(コンベンツアル会)なども教区の司祭たちとともに参列。そしてミサ後に教会敷地内で開かれた祝賀会には、喜び一杯の信者たちの笑顔が溢れていた。



「短信」

▼連合壮年会黙想会
連合壮年会(田畑和昭会長)では、二月二十一日(土)午後、ザビエル教会で黙想会を開いた。指導は同会顧問司祭の永山幸弘神父。集まった会員二十人はロザリオの祈りで黙想が充

志布志教会の
りほちゃん

ほめるに値する子どもを表彰する志布志町の「子ほめ条例」が施行されて二年。今回、志布志教会のりほちゃんが努力賞を獲得しました。
おめでとう!

つげよう・はじめよう」あなたがたは地の塩・世の光」をテーマに全国十一か所、二〇〇二年九月二十九日午後二時にさげられた。前回はこの企画に加わった鹿児島島の青年たちは、ザビエルと島津貴久の会見地伊集院城山公園をミサ会場にしている。
今年の催しは北は北海道から南は沖縄までの開催。実施にあたって鹿児島島の青年たちは「同じ時に意識してミサをささげることによって全国の青年たちの一体感を強めよう」としただけでなく、英語と日本語の両方を記載した式次第を作成す



勢揃いのミサ参列者たち

るなどし、準備の段階からミサを作り上げることの重さを学んだ。教区の青年たちと外国人とで作り上げたこの日のミサでは、ミサの終わりに拍手が起こるなど心の交流があったことがうかがい知れた。
ミサ後、青年たちは輝きを取り戻して欲しいという狙いから製作された映画の上映を行った。上映されたのはドキュメンタリー「二〇七十一―天国はつくるもの―」。環境問題や海外支援に身近なことから取り組んでいく青年の姿、また沖縄から鹿児島までの九百キロを手漕ぎの小舟サバニで行く若者ならではの熱い挑戦が描かれた映像から、青年たちは自分たちのあり方を考え直すきっかけを得ていた。
▼青年会が黙想会
三月二十日(土)午後青年会の黙想会が教区本部で開かれた。青年たちは黙想、ゆるしの秘跡、十字架の道行きをした。

二〇〇三年度教区教勢まとめ

初めて外国籍信徒についても調査

二〇〇三年の鹿児島教区教会の動向がまとまった。報告書は、教区内の小教区、修道院、諸施設及び信徒の方の動きが分かるようになってきている。二〇〇三年の信徒総数は九二八七人で、司祭・修道者を加えると九五二七人になる。中でも、修道女の減少が目を見く。前年度より一〇人減少し、全体で一八七となつてきている。

【居所不明者】

各小教区の懸命な努力にもかかわらず、昨年とほぼ同数の三二二人。信徒数に比例して、多い教会は不明者も多い。転出、転入の際は速やかに主任司祭に報告するようにして欲しいと思う。住民票を移動する時と同じように重要なことと認識されんことを期待したい。そのことが、不明者の減少につながる。

【ミサ参加者】

信徒総数が昨年比にして三五人減少したが、主日のミサ参加者は二%増加し

ている。昨年は二六%だったのが、今回は二八・六%になつてきている。個別に見ると、始良、志布志、古田町、知名瀬教会が増加している。中でも、古田町教会は二倍の参加者になつてきている。もちろん全員参加が望ましいのはいうまでもない。

【求道者】

幼児洗礼、成人洗礼が横ばいにとどまつている状態の中で、求道者は二〇人近く増えている。あ司祭の話だと、要理参加者の中で、今の自分の問題が解決すると、研究

会から遠ざかる傾向が強くなつたという。その場しのぎの要理参加者が多くなつたことは否めない。同時に、福音を提示するこちら側にも反省点があるのだろうか。因みに、求道者の数は八三人である。

【教会学校】

将来の教会を担う子どもたちの動きは大事である。今回の統計では、中学生、高校生の数は横ばいの傾向ながら、小学生が大幅に減少している。四〇人ほどの減で、四二八人となつている。中学生は二二四人、高校生は一〇二人。

文芸

短歌 (思川短歌会作品)

名瀬 林 明子
うみをみるエメラルド色すきとおる
かみさまから心のいろにゆめをみる小鳥のようにうたいたい
いきせつの色をあざやかになく
(評) 結句の詩としての完成度が高く、二首とも感動をあたえる歌です。

古仁屋 豊島忠司

「高々とした心を」と励ましの賀状が届く神父様より

(評) 上の句が歌を活した佳作。

成しがたき愛のみことば知らざれば
われ野にうたい野に舞うものを
(評) 「愛のみことば」の表現がよい。

鹿児島 春山マリ子

悲しみが深みに染まる我が心祈り
なしでは生きて行けない
(評) 信仰は静寂であることの証の佳作。

阿久根 中津濱フサ子

病ゆえ迷惑かける夫の背に口には
出せず日々手を合わす

(評) 心温まる歌、貝拾いの歌も佳作です。

父の声青母の声はオレンジ色
ちよると川面にひびく色
(評) 「やっぱり」の口語的表現が生きた佳作です。「痛みを耐えて」も尊い信仰の句です。

鹿児島 春山マリ子

愛の歌やっぱりマザーテレサかな
両足の痛みを耐えて春待てど
(評) 「やっぱり」の口語的表現が生きた佳作です。「痛みを耐えて」も尊い信仰の句です。

鹿児島 春山マリ子

生きた佳作です。「痛みを耐えて」も尊い信仰の句です。

2003年 鹿児島教区教勢

小教区	信徒数			居所不明	洗礼			転入			転出			死亡	求道者
	総数	実数	数		子供	大人	教区内	教区外	その他	教区内	教区外	その他			
ザビエル	889	831	58	4	16	13	4	2	3	4	1	13	17		
玉里	273	273	0	0	2	0	6	0	0	1	30	0	3		
吉野	196	186	10	0	1	4	1	0	0	0	0	0	1		
鴨池	550	518	32	3	13	8	4	1	7	12	1	5	17		
指宿	800	776	24	7	2	5	2	3	6	4	5	9	6		
紫原	81	81	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0		
始良	225	176	49	0	0	3	4	0	0	5	0	2	1		
溝辺	256	247	9	2	2	4	6	0	3	3	0	0	3		
種子島	11	11	0	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0		
加世田	72	59	13	0	0	0	0	0	4	3	8	1	0		
計	145	145	0	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0		
計	3498	3303	195	16	37	41	30	7	24	34	45	31	48		
国分	145	141	4	0	0	2	1	7	3	5	0	1	0		
垂水	23	23	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
鹿屋	245	236	9	1	0	0	4	0	4	2	0	2	5		
志布志	87	87	0	4	4	0	0	0	0	0	14	0	2		
計	500	487	13	5	4	3	5	7	7	7	14	3	7		
出水	188	188	0	3	0	1	0	3	1	2	2	3	3		
阿久根	57	54	0	0	3	1	2	0	0	0	0	3	9		
大口	150	150	0	1	0	1	2	0	1	1	0	2	2		
川内	293	293	0	3	2	1	3	0	3	1	2	1	3		
入来	87	87	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1		
計	775	775	0	8	5	4	8	3	6	4	4	9	18		
聖心	875	863	12	6	5	1	1	0	18	3	0	13	3		
古田町	792	758	34	0	3	6	2	12	10	0	0	7	1		
大熊	610	606	4	7	5	6	1	0	5	5	0	12	2		
知名瀬	348	348	0	1	2	8	0	3	1	1	0	9	0		
古仁屋	200	194	6	0	1	0	0	0	9	6	0	5	0		
瀬留	436	436	0	1	1	10	1	0	0	0	0	8	2		
大笠	648	603	45	5	2	0	0	0	0	0	0	13	2		
計	3909	3808	101	20	19	31	5	15	43	15	0	67	10		
母間	498	498	0	5	5	1	0	2	1	1	0	12	0		
泊和	107	104	3	4	2	0	0	2	0	1	0	1	0		
計	605	602	3	9	7	1	0	4	1	2	0	13	0		
合計	9287	8975	312	58	72	80	48	36	81	62	63	123	83		

【諸施設】 教区内には、教育関係施設(幼稚園、中・高校、短大、大学)が三施設ある。他に保育園が二園。社会福祉事業(老人ホーム、

デイサービス、養護、障害者施設等)は二〇業種に及んでいる。その他の事業(センター、黙想の家等)は五施設で行われている。経営母体は鹿児島教区、各男女修道会があたり、地域社会のニーズに応えるべく、日々精進している。

【外国人籍信徒】

今回初めて外国籍の信徒の動向を調査してもらった。しかし、お願いした時期が遅くなり、十分な結果を得ることが困難であった。ただ言えることは、いくつかの小教区で行っている外国人のためのミサに参

加している方は、六七人となつてきている。今後、確実に増加の一途をたどるのである。外国籍の信徒の方への司牧体制が問われることになりそうである。

うすればいいのかを考えた。大事なことは、いつも前進あるのみであるということである。宣教する教会として、統計結果は一つの参考資料である。前進のための材料にしていただくとありがたいと思う。(報告/小川靖忠)

会員募集

思川短歌会・俳句会

あなたの祈りの短歌、俳句を毎月三首、三句以内を書いて会宛にお送りください。
千八九〇一〇〇六四 鴨池新町三二五二四〇二
田平新太郎方(匣〇九九一五五二四二六二)
思川短歌会 思川俳句会